

経営比較分析表（令和5年度決算）

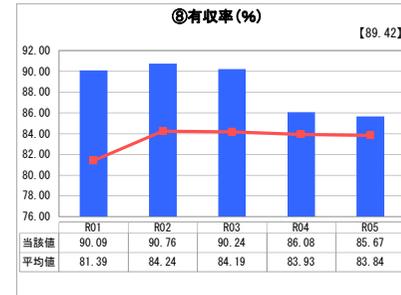
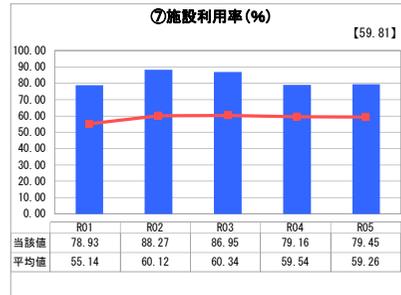
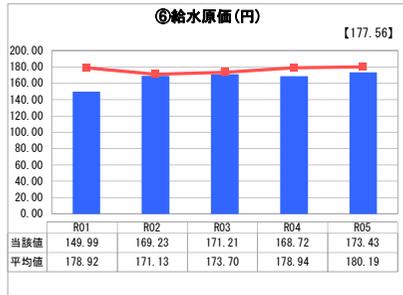
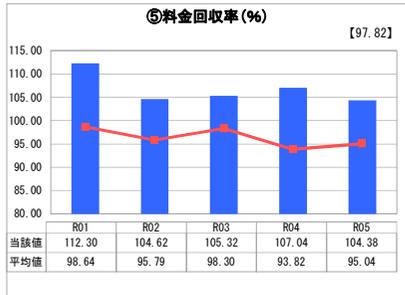
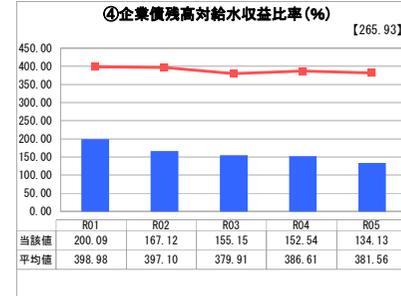
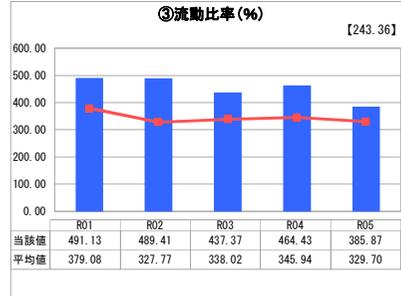
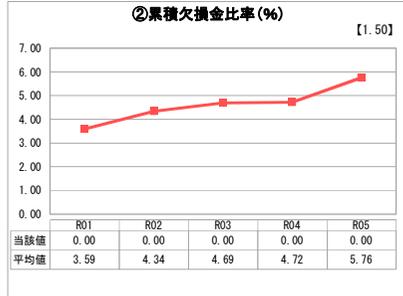
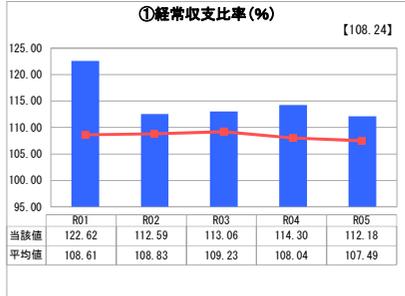
熊本県 宇土市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.03	86.12	3,784	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,371	74.30	489.52
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
31,237	24.85	1,257.02

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を上回っており、②累積欠損金も発生していないことから、健全な経営を維持していると言える。

③流動比率は類似団体よりも高い水準にあり、現在は現金は十分に確保されている状況である。しかし、公共下水道事業からの徴収委託費に依存している部分があるため、本来は料金収入で賄えることが望ましい。また、④企業債残高対給水収益比率は、類似団体より低い数値となっており、今後もこの状態を維持できるよう努めていく。

⑤料金回収率は100%を上回っており、近年は同水準で推移している。また、⑥給水原価は5年前と比べると類似団体平均値との差はなくなってきており、今後は経費の上昇も見込まれるため、更なる財源確保に努めなければならない。

⑦施設利用率は、類似団体よりも高い水準にあるが、人口減少に伴い、今後は施設利用率の減少も見込まれることから、広域連携による施設規模の縮小等を検討していく必要がある。

⑧有収率は類似団体よりも高い水準となっているが、年々減少しており、適切な整備に努めていかなければならない。

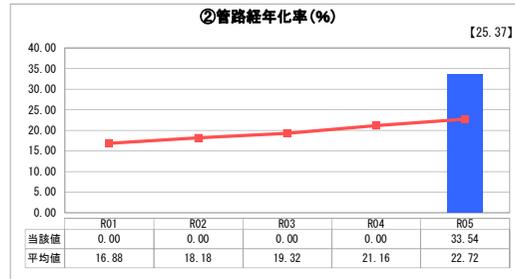
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は年々上昇しており、施設の老朽化が進んでいる状況がうかがえる。また、②管路経年化率においても平均値を上回っており、耐用年数による更新時期が迫っている状況であるため、今後、施設利用とともに検討していなければならない。

注) R3・4年度については報告誤り。R3・4年度ともに30%程度となっており、R5年度も同水準で推移している。

③管路更新率については年度により更新率にバラツキがみられるため、安心安全な水の提供や安定した経営のために計画的な管路更新に努めていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

本市の水道事業は、類似団体と比べて比較的健全な運営がなされていると言える。今後は包括的な民間委託等を進め、料金収入の確保や計画的な更新を行いながら、健全な経営に努めていく。また、物価高騰等の社会変化に注意しながら、将来の水需要に見合った適正な料金設定や施設規模の更新等に取り組んでいく。